

## 蜜月・旧統一教会と自民党：／上（その2止） 安倍家3代と「反共」の絆 雌伏の晋三氏に再接近

簡易検索 2022.09.08 東京朝刊 3頁 三面 (全3,033字)

<1面からつづく>

旧統一教会と安倍家3代の関係はどのように築かれたのか。

教団は1954年、文鮮明氏が韓国で創設した。日本では64年に宗教法人として認証され、初代会長には久保木修己氏が就いた。

教団系出版社が刊行した「日本統一運動史」によると、教団は同年、首相を退任して4年あまりたった岸信介元首相の自宅（東京都渋谷区）の隣に本部教会を移した。

68年には「共産主義からの解放」を掲げる教団系の政治団体「国際勝共連合」が設立された。会長に久保木氏、名誉会長には右翼の大物として知られ、戦後の政財界に強い影響力を持った日本船舶振興会会長の笹川良一氏が就任した。

岸氏と笹川氏は戦後、共にA級戦犯容疑者として収監されていたこともあり、親しかった。岸氏と統一教会は「反共」という理念で一致し、笹川氏の仲介もあって関係を深めたとみられる。教団側が選挙を支援していた記録も残る。勝共連合が発行する「思想新聞」は、86年の衆参同日選に向けて「保守圧勝を」「あなたにもできる選挙活動」と訴え、選挙事務所での手伝いや電話での投票依頼などを紹介した。自民党は選挙に圧勝。同紙は「勝共推進議員130人が当選」と大々的に報じた。

一方、日本では70年代から80年代にかけて、教団が絡む霊感商法が社会問題化する。87年には対策弁護士連絡会（全国弁連）が結成され、同年には岸氏が死去した。

それでも、以降は党幹事長に就任した娘婿の安倍晋太郎氏がしばしば「思想新聞」に登場するようになった。88年の勝共連合の新春懇親会で「皆さんには大変お世話になっている」とあいさつする様子も掲載された。当時を知る政界関係者は「旧経世会における業界団体のような票田を持たない清和会は、宗教団体に活路を見いだそうとした」と解説する。晋太郎氏が91年に亡くなった後も、自民と教団側との関係は続いた。

一方で、安倍晋三氏は当初、教団と一定の距離を保っていたという指摘もある。90～2000年代、教団の霊感商法に批判が集まっていた時期と重なる。

06年、官房長官だった安倍氏は教団の関連団体「宇宙平和連合」（UPF）の会合に祝電を送った。15年後に前首相として教団トップを礼賛するビデオメッセージを送ることになる団体だが、この時は全国弁連などの批判を受け、安倍氏の事務所は「『官房長官』の肩書で祝電を送付したと報告を受け、担当者に注意した」と釈明した。

ただその後、安倍氏は首相に就任するものの1年で辞任する。2年後の09年には自民も野党に転落した。統一教会は同年、教団傘下の会社の社長らが「不安をあおって印鑑などを売りつけた」として特定商取引法違反容疑で逮捕され、有罪判決や略式命令を受けた。全国弁連の渡辺博弁護士によると、教団の責任者は「政治家とのつながり、絆が弱かったから警察の摘発を受けた。今後は政治家と一生懸命つながっていかないといけない」と機関紙で語っていたという。近付いた政治家の一人が、雌伏の時期を過ごす安倍氏だった。

◇追い込まれ公認辞退

2016年の参院選比例代表に自民党から出馬した宮島喜文氏（71）の選挙戦は苦戦が予想された。当選ラインを12万票と読んでいたが、会長を務める日本臨床衛生検査技師会で見込める票は5万票程度。村民の票をかき集めても1000票にも届かない。7万票程度の上積みが必要だった。

「ちょっと厳しいかもしれん」。当初、宮島氏は親しい後援会のメンバーにこう漏らしていた。それが最終的に12万2000票あまりを得て、当選を果たした。

教団の関連団体「世界平和連合」の後押しを受けて当選した宮島氏。その後も関係は続いた、と元秘書は証言する。祝電の依頼に応じ、集会の案内が来ると日程が合う限り参加。静岡県熱海市での泊まりがけの「研修」にも、参加を求められた。教団関連の歴史や教義の説明を受けたという。

17年には、教団の韓鶴子総裁や信者ら1万人以上が参加したとされる東京・有明コロシアムでのイベン